

## 2014年3月 環境モデル都市選定

### 目指す将来像

市民・事業者・行政の“協創”で築く低炭素“循環”型住宅都市

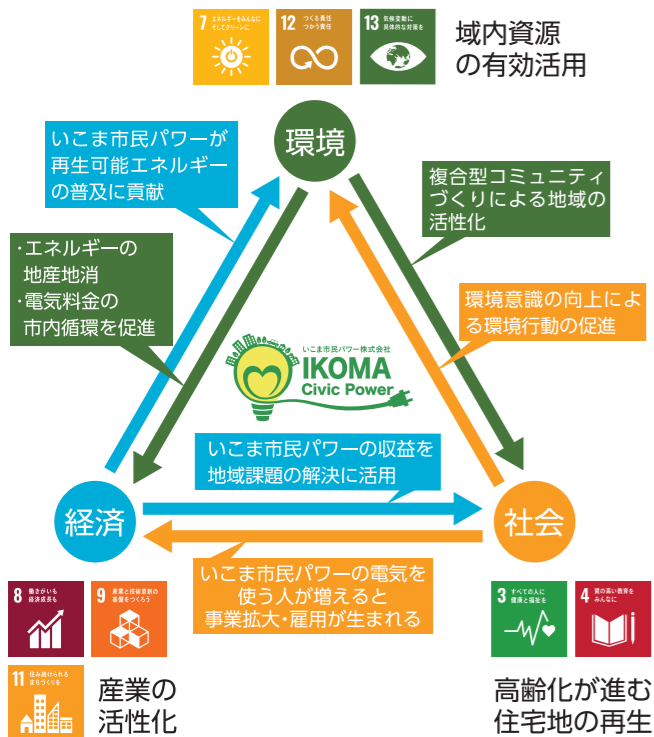
## 2019年7月 SDGs未来都市選定

いこま市民パワーによる電力事業を切り口とした市民協創まちづくりのさらなる発展を目指します。

## 2019年11月 ゼロカーボンシティ宣言

生駒市は2050年までにCO<sub>2</sub>排出量を実質ゼロにする取り組みにチャレンジします。

生駒市は、環境・経済・社会が統合的に向上するまちづくりをすすめ、SDGs達成に向けた取り組みをリードします。



## SDGsは世界を変えるための17の目標

SDGs(持続可能な開発目標)は2015年の国連サミットで決められた世界をよりよくするための目標です。2030年までに達成を目指す17の目標が設定され、193の国連加盟国みんなが取り組み、「だれひとり取り残さない」ことを誓っています。



## 豊かな環境が社会、経済を支える

SDGsの概念を表すために、スウェーデンのストックホルム・レジリエンスセンターのヨハン・ロックストローム氏によって考案された、「SDGsウェディングケーキモデル」があります。17の目標は1つだけ達成すればいいというわけではありません。それぞれの目標をつなげ、さまざまな人が協力し合い、達成を目指すことが大切です。17の目標は私たちが地球上で暮らすために必要不可欠な「自然環境」が土台となり、「経済」「社会」を支えています。



あなたの行動が  
まちの未来を変える

奈良県生駒市地域活力創生部SDGs推進課  
TEL:0743-74-1111(代表)

発行:2021年3月

## 生駒市の循環型まちづくりのあゆみ

「環境モデル都市」として、「市民力」を柱に低炭素で環境にやさしいまちづくりをすすめてきた生駒市。市民の参画意識が高く、高齢化がすすむ中でもセカンドキャリア世代が様々なビジネススキルを活用してまちづくりを実践しているのが、生駒市の特長です。2019年には「SDGs未来都市」にも選ばれ、地域新電力会社「いこま市民パワー」を中心に、エネルギーの地産地消や生活利便性の向上、地域活性化に取り組んでいくことで、持続可能なまちを実現します。

## 生駒市の課題

生駒市は、他の住宅都市と同様に、少子高齢化や市内就業率・地元消費の低さといった課題をかかえています。地球規模の気候変動が深刻化する中で、これらの課題へ効果的に対応するため、住民がまちづくりに参画・活躍する場をつくるなど「市民力」を活かし、持続可能なまちの好循環を作っていく必要があります。



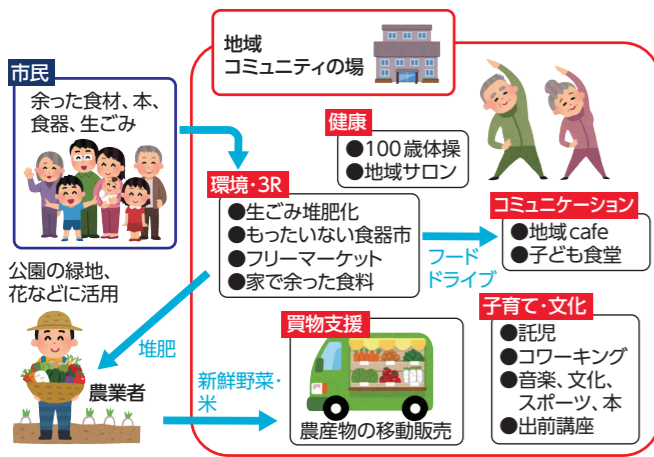
- 【生駒市】
- ・人口: 118,839人(令和3年3月1日現在)
- ・面積: 53.15km<sup>2</sup>
- ・特徴: 大都市近郊の住宅都市、生駒山など緑豊かな自然環境、高い市民力

# SDGs 未来都市いこまの取り組み

## 複合型 コミュニティづくり



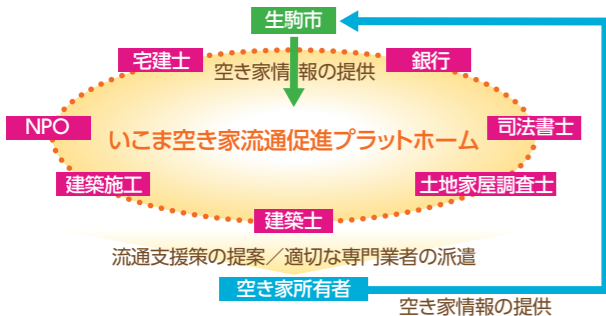
複合型コミュニティとは、地域の集会所や公園などの場所を活用し、資源ごみの回収・リサイクル、移動支援、100歳体操、不用品の有効活用など、多様な人が集まる場を設けることで生まれるさまざまな機能を持ったコミュニティのことです。誰でも歩いて行けるように複合型コミュニティを市内のいたるところにつくることを目指しています。



## 空き家流通促進プラットフォーム

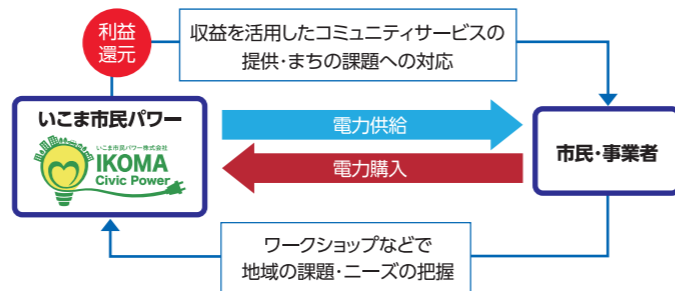


市が空き家所有者と専門事業者の橋渡し役となり、空き家の売却や賃貸を目指す仕組みです。専門事業者が所有者の思いに寄り添い、支援します。



## いこま市民パワーの電力事業を切り口とした市民協創のまちづくり

### まちづくりの事業スキーム



2017年7月、生駒市は地域新電力会社「いこま市民パワー株式会社」を設立しました。電力事業による再生可能エネルギーの普及促進、エネルギーの地産地消、経済の活性化を図るとともに、収益の還元による地域課題の解決、市民のまちづくりへの参画を促します。

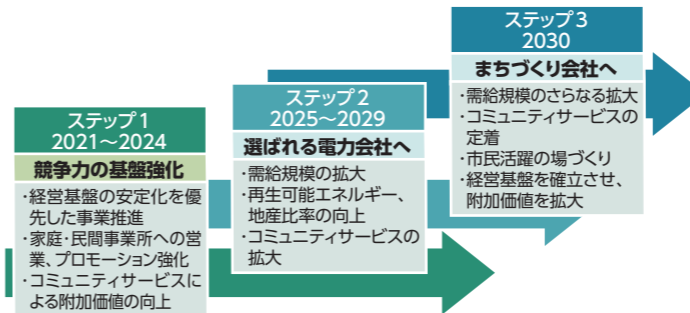
### 電気料金の地域内循環による経済活性化

市外に流出していた電気料金が市内にとどまり地域経済が活性化し、雇用の創出も期待できます。

### いこま市民パワーの電気は市内のこんなところで使われています



### 2020年11月「いこま市民パワー中長期計画 2021」策定



電力事業をベースに、地域課題解決と市民活躍の受け皿となる「まちづくり会社」を目指すことが、長期ビジョンとして示されました。「まちづくり会社」とは、埋もれている市民ニーズを吸い上げ、地域のリソースをつなげながら課題解決に取り組むことを想定したものです。

### 収益はまちの課題解決に活用

収益は株主に配当せず、ワークショップなどで地域の状況・ニーズを把握し、コミュニティサービスとして地域に還元します。

### ICTを活用した登下校見守りサービスを導入

ICタグを持った児童が校門を通過すると、登録したメールアドレスに通知され、登下校の確認ができます。2019年度から、新入生を対象に一定期間の利用料を補助しています。



### 地域の再生可能エネルギーを積極的に活用・検討

地域の再生可能エネルギーを最優先で獲得し、市民・事業者に電力を供給することで、エネルギーの地産地消を図ります。

### 再生可能エネルギー電源



## 食品ロス削減



食品ロスとは、「まだ食べられるのに捨てられている食品」のことです。家庭で余った食品をフードバンクに提供するフードドライブを実施したり、「生駒市食品ロス削減協力店」の登録を行うなど、まち全体で取り組みを進めています。



## 環境啓発事業



環境について楽しく学べるイベントを市民、事業者と協働で開催しています。



環境フェスティバル

ソーラーカー教室

## SDGsカードゲームの開催



一人ひとりの行動がまちの未来に結びついていることを疑似体験できます。



## SDGs達成にはどうしたらいいの?

SDGsは遠い世界のことではなく、私たちの暮らしに深く関係しています。SDGsを達成するためには、まずは身近なことから考え、行動することが大切です。

